

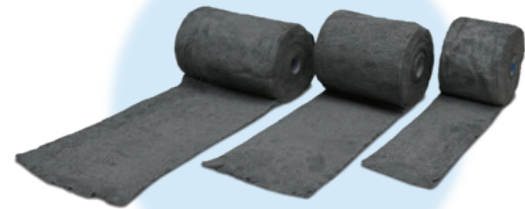
構成材料の仕様

材 料	仕 様・規 格	外 観	標 準 使 用 量
アンチメックT	厚さ×幅×長さ:1.1mm×(50、100、150、200、300mm)×10m 12m ² /箱(100mm幅の場合12巻/箱)	シルバー	55%ラッピング
アンチメックP	4kg/缶、2缶/箱	グレー(ペースト状)	1,000g/m ²
アンチメックF	厚さ×幅×長さ:25mm×200mm×250mm 2kg/個、10個/箱	白(粘土状)	必要量
アンチメックS	4kg/缶、2缶/箱(5℃以上の現場環境で塗布してください)	シルバーグレー(液状)	300g/m ²

アンチメックTの一般特性

項 目	単 位	測 定 値	試 験 方 法
厚 さ	mm	1.1	JIS Z 1902
重 さ	kg/m ²	1.7	—
引 張 強 さ	N/25mm	96.8	JIS Z 1902
伸 び	%	16.5	JIS Z 1902
体積抵抗率	Ω・cm	1.4×10 ¹⁰	JIS K 6911
粘 着 力	N/25mm	18.4	JIS Z 1902
難 燃 性	—	合 格	消防危・第57号
耐熱硫化性	—	滴下なし	—
塩 水 噴 霧	4,000hr	錆発生なし	JIS Z 1902
耐 候 性	5,000hr	錆発生なし	サンシャインウェザオメータ

上記は測定結果の一例です。



アンチメックT
(防食テープ)



アンチメックP
(下塗り材) アンチメックS
(上塗り材)



アンチメックF
(充填材)

神鋼鋼線工業株式会社

本 社 〒660-0091 尼崎市中浜町10番地1
URL <https://www.shinko-wire.co.jp>

● 東 京 支 店	エンジニアリング事業部 営業部 〒141-8688 東京都品川区北品川5丁目9番12号 ONビル	TEL (03) 5739-5256 FAX (03) 5739-5261
● 大 阪 支 店	エンジニアリング事業部 営業部 〒541-0041 大阪市中央区北浜2丁目6番18号 淀屋橋スクエア	TEL (06) 6223-0674 FAX (06) 6201-3476
● 九 州 支 店	エンジニアリング事業部 営業部 〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街1番1号 新幹線博多ビル	TEL (092) 441-5998 FAX (092) 471-8380
名古屋営業所	〒451-0045 名古屋市中区西区名駅2丁目27番8号 名古屋プライムセントラルタワー	TEL (052) 584-6151 FAX (052) 584-6154
札幌営業所	〒060-0004 札幌市中央区北四条西5丁目1番地3 日本生命北門館ビル	TEL (011) 221-2732 FAX (011) 221-2733
● 尼 崎 事 業 所	技術部 インフラ工事技術室 〒660-0091 尼崎市中浜町10番地1	TEL (06) 6411-1021 FAX (06) 6411-1075

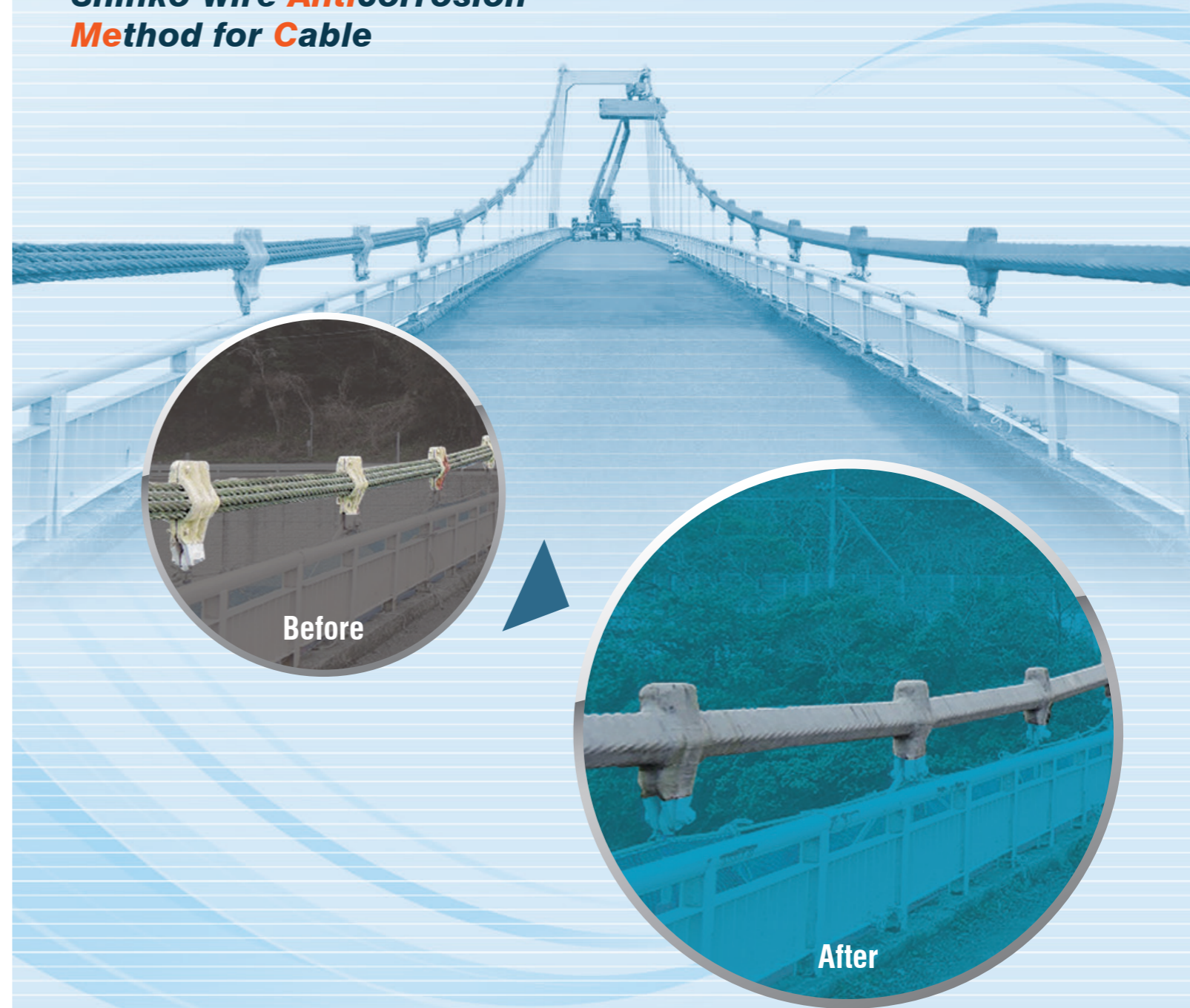
●印は本製品の営業担当部、●印は本製品の技術担当部です。

神鋼鋼線の構造ケーブル用防食テープ巻き工法

アンチメック® 工法

Antimec

Shinko Wire **Anticorrosion**
Method for **Cable**



神鋼鋼線工業株式会社

アンチメック®工法

Shinko Wire Anticorrosion Method for Cable

Antimec

吊橋や斜張橋などの吊構造物に使用されている構造用ケーブルは、常に引張力を受けており、腐食や損傷を放置しておくとは重大な事故につながる恐れがあります。

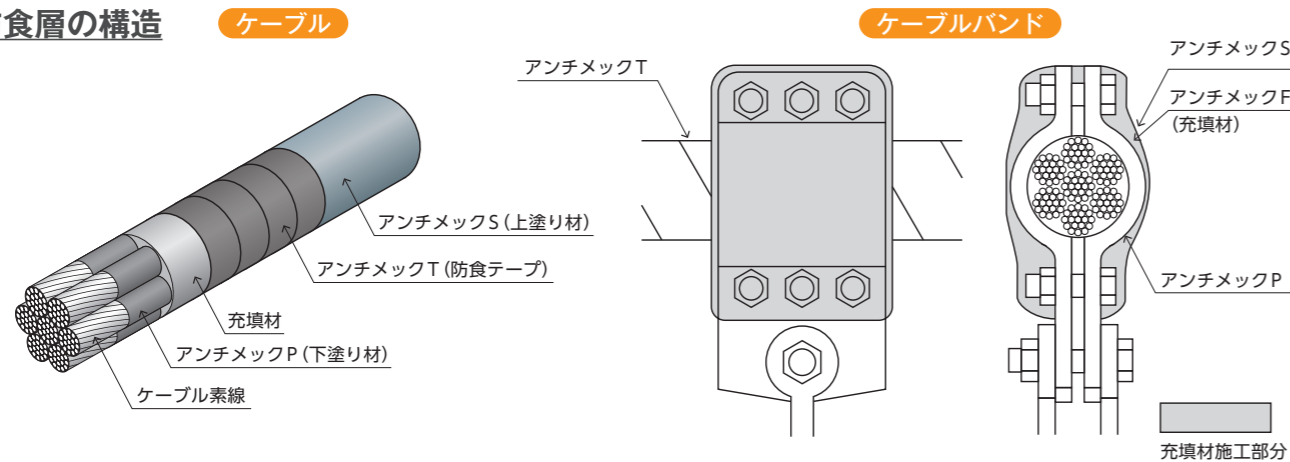
腐食したケーブルは取替えが最も望ましいのですが、腐食が軽度で取替えが困難な場合には、ケーブルの延命策を図るケースがあります。しかし、防食方法が適切でない場合、腐食が進行し続ける可能性がありますので注意が必要です。

神鋼鋼線のアンチメック®工法は、ケーブルメーカーとしての知識と経験から、安定した錆抑制力とライフサイクルコスト(LCC)とのバランスを実現した構造ケーブル用防食テープ巻工法です。神鋼鋼線の防食テープ巻工法は、腐食したケーブルに専用の防食テープを巻き付けることによって空気と水分の浸入を抑制し、腐食の進行を遅らせることが可能で、1989年以來、多くの実績を重ねております。

特長 アンチメック®工法には、以下の特長があります。

- 粘質で柔軟な防食テープなので、ケーブルの振動や伸縮、素線間の動きにも追従し、一般的な塗装のようにひび割れや浮き、剥離による浸水がありません。
- 下塗り材には、錆の進行をおさえる作用があります。
- 充填材を使用することによって、吊橋のケーブルバンドなどの段差部を有する部材への適用も可能です。
- 油系の防食テープによく見られる施工後の油タレ、飛散の心配がありません。
- 施工後も定期的な点検を推奨しておりますが、防食テープは容易に開封し、復旧することが可能です。

防食層の構造



施行前



施行後

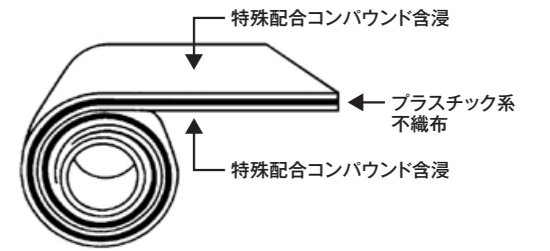


構成材料

アンチメック®工法によって形成される防食層は、以下のケーブル防食用の材料によって構成されています。

●アンチメックT 防食テープ

特殊配合乾性油を主成分としたコンパウンドをプラスチック系の布に含浸させた、構造ケーブル用防食テープです。このテープは太陽の光、熱および酸素を吸収して酸化重合により表面を硬化させ硬化膜を形成する酸化重合硬化型のテープで、防食性、耐候性、耐熱性、柔軟性、変位追従性に優れています。



●アンチメックP 下塗り材

防錆効果のある下塗り材で、テープの接着性を向上させる効果があります。

●アンチメックF 充填材

ケーブルバンドやケーブル束等の段差部を成形するための充填材で、テープの巻付けを滑らかにします。

●アンチメックS 上塗り材

防食テープの表面に塗布する上塗り材で、短時間で塗膜を形成してほこりなどの付着を防止し、テープの防食性・耐候性を高める効果があります。また、染料による着色も可能です(水性弾性塗料を推奨)。

施行方法

施工は、(1)素地調整、(2)下塗り材塗布、(3)充填材充填(段差部のみ)、(4)防食テープ巻、(5)上塗り材塗布の行程で実施します。所定の防食効果を実現するためには適切で確実な施工が不可欠なため、施工は当社の認定した施工業者が、本工法の施工品質管理基準に準拠して実施します。



施行手順